

(報道用資料)

2007年7月27日

株式会社パスコ

航空写真判読による中越沖地震の災害状況図を無償提供
～既存のデジタル地図との重ね合わせが可能な GIS データ形式 (Shape 形式) にて～

<http://www.pasco.co.jp/disaster/detail/070720/>

株式会社パスコ (本社: 東京都目黒区、代表取締役社長: 杉本陽一、資本金: 87 億円、セコムグループ、東証1部、以下パスコ) は、50 年以上にわたり航空機による写真測量を中心として様々な空間情報コンテンツを作り出し、企業や国・地方自治体の防災計画の策定や危険度を示すハザードマップの公開支援などをはじめ、これらを活用した空間情報サービスを提供しています。また、地震や台風による広域災害が発生した場合、被災地域の方々の命と安全を守るために航空機による緊急撮影を行い、災害状況の早期把握や復旧・復興活動に取り組む各機関へ被災状況写真の提供を行ってまいりました。

去る7月16日に発生した「平成19年新潟県中越沖地震」において7月18日、19日に実施した緊急撮影の航空写真を用いた写真判読を独自に行い、7月20日には災害状況図のPDF形式の情報をパスコホームページにて公表し、この度、災害状況図のデジタル地図データをGIS(地理情報システム)で利用可能なデータ形式(Shape形式)での無償提供を開始しました。

■災害状況図

被災の状況は、局地的には現地調査や報道などにより公表され把握されていますが、被災地域を広域に渡って一括した資料として整理することは困難です。さらに、情報の反復利用やさまざまな機関で利用するためにはGIS上に取り込み、既存データとの重ね合わせ、表示・非表示などの処理を行えるデジタルデータとして統合されることが必要です。

そこで、パスコでは被害の全体像の早期把握と復旧・復興活動に役立てることを目的に社内プロジェクトを立ち上げ撮影した航空写真を用いた写真判読を行い、斜面崩壊や液状化、亀裂などの地形の変化のほか、防波堤・道路・橋梁などの形状が著しく変化した場所、全壊家屋などの情報を災害状況図としてGISデータに統合しました。

■利用方法と提供方法

災害状況の概括、概略復旧計画の立案、概略被害額の想定(災害査定)、地盤データや3次元データ・既往の地すべり地形データなどの重ね合わせによる分析や地震災害に関する研究などへの利用を想定し、国や地方公共団体、研究機関などへの提供のほか、既にGISを活用している民間企業にも提供いたします。

データの入手方法は、パスコホームページに公開しております災害状況図(PDF形式)をご参照の上、サイトからのメール、または下記のカスタマーセンターまでご連絡ください。

■データ仕様

(データ形式)

Shape 形式

(データ内容)

- ・震央 本震および主な余震の位置
気象庁報道発表資料「平成 19 年(2007 年)新潟県中越沖地震」について
(第4報)から転記
- ・表層崩壊 斜面での比較的浅い崩壊で、概ね楕円形を呈するもの。
- ・深層崩壊 斜面での深層に及ぶ崩壊で、滑動土くれの原形が識別できないほど変形が
進んだもの。
- ・地すべり 明瞭な滑落崖を有し下部に移動土塊が残るもの。土塊の移動距離は短い。
- ・泥流化堆積物 地すべりや崩壊による移動土塊が泥流となって移動、堆積したもの。
- ・液状化箇所 液状化したと推定される箇所。
- ・亀裂 比較的緩やかな地形で見られる亀裂箇所。
- ・防波堤、道路・橋梁等の変状 防波堤や道路・橋梁において亀裂、段差等の変状が見られるもの。
- ・全壊家屋 家屋等の建物で、空中写真判読で全壊が推定されるもの。
- ・電車脱線箇所 電車の脱線箇所
- ・地形分類(砂州) 地形分類(砂州)の範囲 (1:50,000 地質図幅 柏崎 修正引用)
- ・空中写真撮影範囲 判読を実施した空中写真の撮影範囲

■お問い合わせ先

(お客さまから)

株式会社パスコ カスタマーセンター TEL:0120-494-800

(報道関係者様から)

株式会社パスコ 戦略企画部広報宣伝グループ TEL:03-3715-1048

■新潟中越沖地震・災害状況図 (<http://www.pasco.co.jp/disaster/detail/070720/>)

